

令和2年度摂津市立味舌小学校第1回学校協議会 要点録

令和2年7月16日(木)19:00~20:30

於:味舌小学校校南棟1階学習室

記録:平野 憲昭(事務局:本校教頭)

出席委員:榎谷佳純、以登田毅、中居正一、門野さとみ、小澤香織、角田幸代、高森佳代子

欠席委員:前田文雄、河合隆之

(敬称略)

学校出席者:校長 奥野宏一、教頭 平野憲昭、児童生徒支援加配 大南圭司

1. 校長より挨拶

(校長) 公私お忙しいところ、学校協議会にご出席いただき、まことにありがとうございます。

4月から味舌小学校に赴任してまいりました校長の奥野宏一です。

本日は、今年度のこれまでの学校の取組みを紹介し、皆様から学校経営についてのご意見をいただきたい。いただいたご意見を参考にし、今後の学校経営に生かしていく。配付している資料は、2点。摂津市教育委員会が本校について様々な視点からまとめたデータ。新型コロナ関連についての最近の指示事項。新型コロナ関連については、日々刻々と状況が変化し、それに合わせて対応が求められるので、新しい情報を収集し、整理する必要がある。

臨時休業期間は、児童の生活の様子や学習状況を把握する必要があり、細やかに家庭訪問を行った。家庭訪問を躊躇される家庭もあったので、プリントや学習課題をポスティングすることもあった。家庭学習を手助けするために、教職員が動画を自作し、それを視聴してから家庭学習に取り組むよう促した。本校は動画の作成数も多く、市教委からも認められた。それと同時に、再開された時にスムーズに教育活動が行えるように準備を進めた。

分散登校が始まり、本格再開されるまで、段階的に児童が学校に登校するようになった。学校内でも感染予防対策を行った。登校時は、線路のように地面に白線を書き、間隔を空けて並んでいた。健康カードをカバンから出すときに密になるので、フラフープの中に入って間隔を空けるなど工夫した。児童は仕組みに従い、ソーシャルディスタンスを保ち、今でもきちんと並んで待っている。

本校は昨年度から液体せっけんに変えたことが幸いし、スムーズに手洗いをを行うことができた。養護教諭がイラストで注意喚起してくれている。放課後の教職員による消毒作業は引き続き行っている。

新型コロナウイルスの感染リスクや臨時休業に伴う不安などを抱える児童は少なくない考える。メンタルケアを十分に行う必要がある、SCやSWWと連携して、相談できる体制をつくっている。相談を希望する児童も数名いる。不登校傾向の児童にとって、分散登校期間は、登校することができ、プラスの面もあった。

摂津市教育委員会が本校の状況についてまとめたデータを参考に、現状の課題を把握し、学校運営を行っている。本校の取組みは、「学力」・「生徒指導」・「人権教育」・「支援教育」・「教職員」がうまくかみ合っている。臨時休業中においても、校内研修を計画し、講師を招へいするなどして積極的に取り組んでいる。

本校の学習指導における研究は、昨年度に引き続き「書き換え学習」を中心に行う。言語力を定着させて、自分の考えを表現できるよう指導していく。

人材育成については、メンター研修やコーディネーター研修を校内で行い、経験年数によってグループをつくり、実践を交流することで、困り感を解消する取組みを行っている。また、OJTを推進し、日ご

ろからコミュニケーションを図り、お互いに高め合える教職員の関係を築いている。

臨時休業中の学習保障にあたり、ICT機器を活用した学習が効果的であった。ICT 機器に詳しい教職員が多く、家庭学習を助ける学習動画を自作したり、さまざまな学習支援サイトを紹介したりすることができた。今後、各家庭のインターネット環境の整備も含めて、ICT 機器を活用した学習スタイルを推進していくことになる。また、ICT 機器を活用して集会を実施した。ZOOMというアプリを使用し、学習室をスタジオとして、各教室に映像を配信した。児童会役員の紹介を行うこともできた。児童会を中心として、児童が主体となる取り組みを積極的に取り入れていきたい。終業式では ZOOM を使った双方のコミュニケーションが取れる取組みを試してみたい。さらに、ZOOM などを活用して、地域の方との交流がしやすくなったり、世界とのつながりが可能になったりするのではないかと期待している。

「誰もが安心できる居場所としての学校づくり」が本校の重点目標の一つである。その実現のためには、学級集団が思いやりのあふれる関係を築き、児童の自尊感情を高めていくことが大切である。児童が当たり前に行っていることを認め、価値を見出していくことが必要となる。また、全員が同じようにそろえるのではなく、一人ひとりのちがいが認められ、個別に合った指導も行っていく。今年度から、校内適応指導教室「つながりルーム」を設けて、教室に入りづらい児童が、スモールステップの一つとして、居場所を確保し、教室へとつないでいこうと取り組んでいる。

感染予防だけでなく、熱中症予防の対策も行う必要がある。マスクは基本着用するが、登下校中は外してもよいということになり、自治会長等の地域の方にも連絡されている。体育の時間など激しい活動をする場合も、マスクは外している。ソーシャルディスタンスを保ちながら、2 つの予防対策を徹底するには、児童の理解も深めていかなくてはならない。

また、授業時間の確保も必要で、夏休みを短縮するが、学校行事はできる限り実施する予定にしている。運動会については、時間短縮や内容変更、保護者の入場制限などをした上で、実施する。修学旅行や林間学校などの宿泊行事は、旅行業者との打ち合わせを行い、保護者への説明を行った上で、実施する。林間学校の予定していた行先が今年度末まで休館となるため、行先を変更した。

学力保障という観点から、ICT 機器を活用したより効果的な授業づくりを行い、児童の学力が定着しやすい工夫をする。

様々な分野の見識がある学校協議会委員の皆様から、ご意見をいただき、地域の声や状況も踏まえながら、学校経営を行っていく。今年度は、学期に1回程度として、年3回学校協議会を実施したいと考えている。ご意見をお願いしたい。

(委員) ZOOMを使った取り組みは今後もさらに工夫できる。会議や研修などもZOOM を使って行うことができる。家庭で使うのであれば、Wi-Fiの環境を整える必要があるが、学習にも活用することができるのではないかと。オンラインは全員の顔が画面に映り、児童の顔をよく見ることができるというメリットもある。児童間でも顔を見て学習ができるので、別の意味で新鮮さもある。

(校長) 実は、朝会は一度失敗している。利用限度時間を過ぎてしまって、つながらない状態になってしまったが、その後、使い方を見直して、スムーズに行うことができた。

摂津市では、文部科学省の GIGA スクール構想により、今年度中に児童と教職員対象に1人1台のタブレットが配付されることになっている。8月には、高速ネットワークを設置される。家庭と連携した学習にも役立つし、授業も新しい形に変わっていくだろう。

(委員) そうなると、家庭訪問しなくても、保護者との懇談が気軽にできるようになるのではないかと。

私は、別の学校で福祉委員をしていて、小学3年生とお年寄りが一緒に遊んだりする場面があるが、今まで通りでは行えていない。今だからこそできる取り組みがないかと考えている。本校区では、例年地域の方が校区探検をしていただいているが、このような地域とのかかわりを作るために何か取り組めないだろうか。人とつながる学びを大切にしたい。ICT機器を使えばできることも広がるのではと思う。

(委員) 毎年やっていた、青少年指導員連絡協議会が主催している飯盒炊爨は今年度、中止となった。子どもたちのために何もしてあげられないなと思っている。子どもたちに楽しい思いをさせてあげることが我々の役割だと思っている。子ども食堂も今月は中止となった。できることを活動しようと思い、パトロールを行っている。子どもと直接接することができないところがつらいところである。

オンラインをもいいが、子どもが悩んでいることもあるようなので、実際に会って、児童から先生に相談できたり、先生にメールなどでアクセスできたりするようなくみができれば、もっと子どもに寄り添えるのだと思う。

(委員) コロナの休業中に子どもたちはどのような生活をしているのかなど気になっていた。密にならず、安全に過ごしているのだろうか。臨時休業が明けて、下校している子どもに「学校が楽しかった?」と聞くと、「楽しかった」とみんなが言っていた。やはり、学校に行けるということは、子どもにとって大切なことなんだと感じた。行事も工夫しながら、やっていくということで安心しました。教室では、机の並びなどどのような対応をしているのか。

(校長) 摂津市の指示はレベル3・2・1と分けられていて、レベル3・2の時は音楽で歌を歌ったり、リコーダーを演奏したりすることは禁止されていたが、今はレベル1となり、配慮をしながら歌を歌ったり、リコーダーを演奏したりすることができる。

給食は全員机を前に向いて、しゃべらずに、静かに食べている状況。感染防止のために、必要なことであるが、児童にとっては、苦しい状況ではあるので、何かできないかと考えている。

大人は新習慣になれない部分もあるが、子どもたちは決められたルールを守り、順応が速いようにも感じる。登校する際に、列車のレールのような線を引き、間隔を当てて並んでいた。今その線は引いていないが、自然に並んでいる。

(委員) 今の状況では、民生委員としての活動ができていない。毎年行っている校区探検が実施できず、残念だった。

民生委員の定例会議は、時間を短縮して行っている。パトロールをして子どもを見守る活動を継続して行っている。子どもたちはきちんとマスクして、感染対策を行っている。登校する様子を見ても、楽しそうにしているので安心している。WITHコロナで、この状況を乗り切りたい。

運動会は実施することなので、うれしく思う。こんな時だからこそ、子どもの楽しい行事も実施していきたい。

臨時休業中にましたっこラーニングという学習用の動画を学校が作っているのを知り、視聴して、感動した。休業中でも、これだけ熱心に子どものために準備してくれている学校はそんなになんかと思う。Wi-Fiの環境以外で動画を見るとお金がかかるので、インターネット環境を整えることが大切。

(委員) 自分が勤めている幼稚園で、昨年度卒園した保護者からは、入学してすぐに臨時休業になったので、学校生活になじめているか心配だという声がある。学校が始まってからも、給食は前を向いて、しゃべら

ずに、静かに食べている状況で、児童はどのような様子なのか。

(校長) 1年生は概ね学校生活に慣れて、元気に学校に来ています。ただ、これまでは、緊張もあったと思うので、これから不安などが表れてくるかもしれない。子どもだけでなく、保護者も厳しい生活環境となり、つらい気持ちを抱えている方もおられると思うので、フォローが必要であると考えている。

(委員) 行事も気を配りながら準備していただき、ありがたい。

レベル1での学校の対応を気をつけてやるしかない。対策を十分にしても、感染してしまうこともある。学校はこれまで、さまざまな対応をていねいに行い、工夫して教育活動を行っている。

タブレットは全家庭にあるわけではないので、心配していたが、摂津市ではタブレットが全家庭に配付されてるとのことで、安心している。全員が取り組めるよう環境が整ってからでないと、不公平がでてしまう。

(校長) 新型コロナウイルスの影響を受け、苦しい状況にある家庭もある。学校では見えていない部分もあるので、地域の皆様からぜひ教えていただき、学校で対応していきたい。

(教頭) 臨時休業が明けて、児童が学校に登校し、授業が始まり、学校に活気が戻り、うれしく思っている。

学校は、やはり児童あってこそ成り立つものである。児童のために学校があり、児童が主体的に学ぶことができる学校であるべきだと改めて実感した。授業時数を確保することは必要なことである。しかし、最も大切なことは、児童が学校に居場所を感じて、安心して、充実した学校生活を送ることである。そのために、教職員が全力で教育活動に当たっていく。

地域の皆様には、臨時休業中も児童を見守っていただき、児童の様子なども教えていただけるのでとても助かっている。地域と学校が連携して、児童の成長を支援していきたい。そのためにも、学校での様子を地域の方にもっと知っていただきたいので、学校だよりやホームページ、ブログなどを通じて、発信していこうと考えている。

(大南) 児童は、臨時休業中、さまざまな不安を感じており、学校生活が始まっても、その不安からリズムを取り戻せないこともあるだろう。時には、問題行動として現れることもあるかもしれない。そんな時に、教職員が児童に寄り添い、支援することが必要である。また、保護者や地域の方の中にも、非常事態で苦しい状況になっている方もいると思うので、学校が相談できる窓口となり、力となれることもあるだろうと考えている。そのための学校体制を作っていく。

(校長) 本日は、さまざまなご意見をいただき、ありがとうございます。今後の学校運営に反映させて、よりよい教育活動を行っていく。

次回の学校協議会の実施については、日程等を調整したうえで、後日連絡をする。